

2002年度 第1四半期業績結果 と今後の取組み

2002.8.1

アンリツ株式会社

社長 塩見 昭

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、北米、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。

本日のサマリー

- 全般的状況
 - 2002年度を通し、短期的には厳しい状況が続く
 - 長期的にはIPを核にした光通信やモバイル通信などの成長推進力は損なわれていない
 - 成長を続ける中国市場に大きなビジネスチャンスがある
- 2003年度以降のV字回復
 - 新しいIP戦略の展開
 - 中国室の発足
 - 新たなる受注拡大施策
 - 更なる経営の効率改善と固定費削減

2003年3月期 第1四半期業績概要

(1) 全社 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	連 結		単 独	
売上高	176	(-207)	93	(-150)
営業利益	26	(-86)	39	(-71)
経常利益	36	(-88)	43	(-73)
純利益	89	(-121)	87	(-105)
FCF	64	(-12)	67	(-53)

(2) 事業セグメント別 (連結)

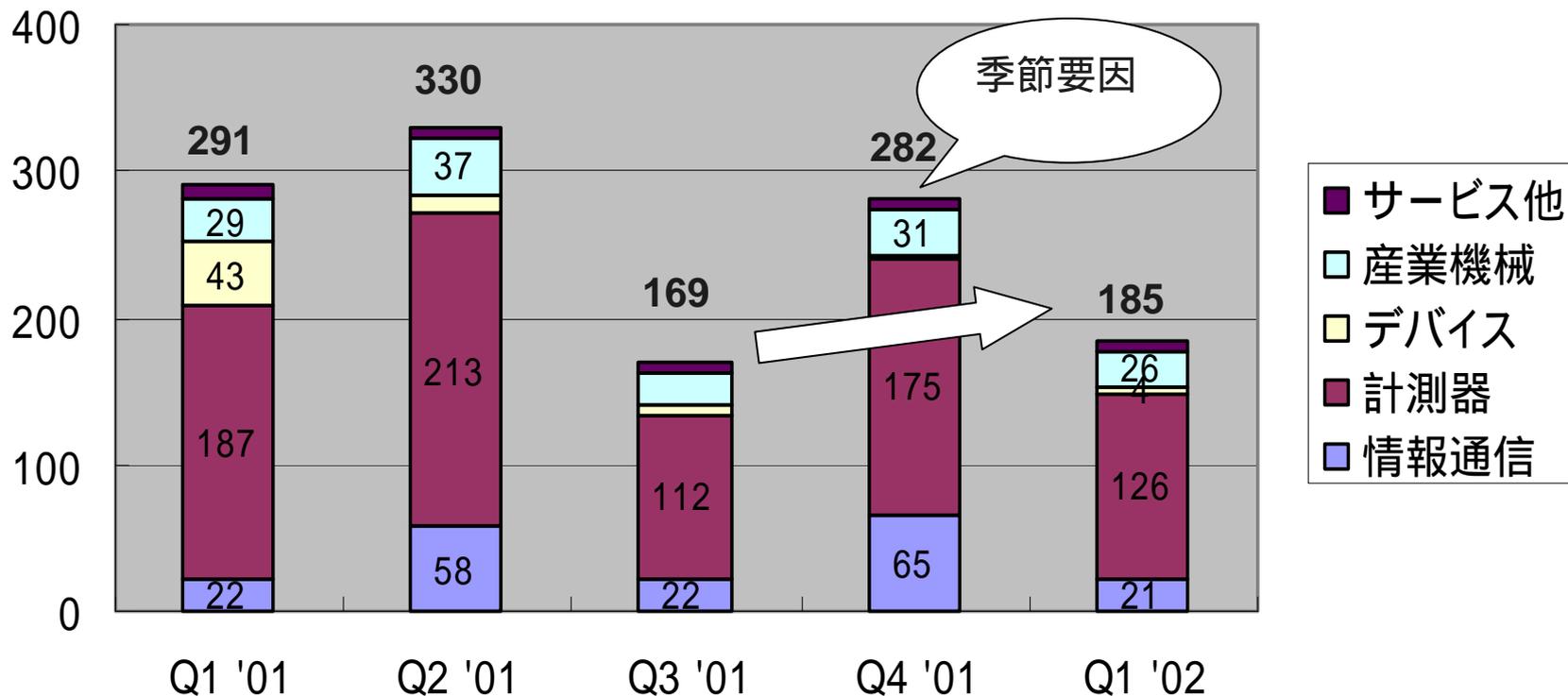
単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	売上高		営業利益	
情報通信機器	17	(-9)	12	(+7)
計測器	126	(-144)	9	(-71)
デバイス	4	(-43)	4	(-20)
産業機械	21	(-7)	3	(-1)
サービス他	7	(-4)	2	(-2)

受注推移 (四半期ベース)

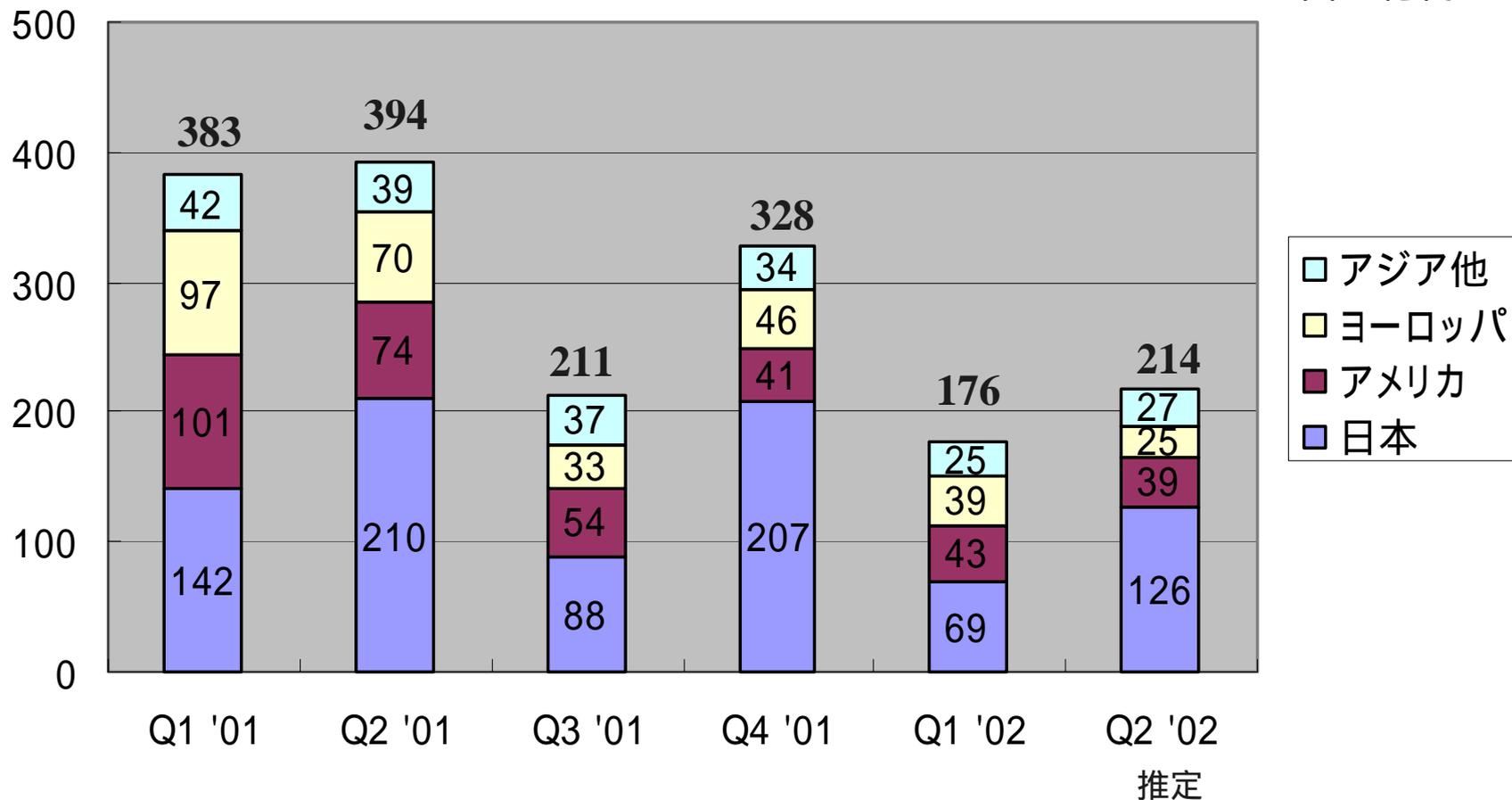
単位: 億円

受注推移



地域別売上高推移（四半期ベース）

単位：億円



2003年3月期第1四半期に実施した施策

- 社内カンパニーの再編(7月1日実施)
 - － ネットワークソリューションズの解散
 - － メジヤメントソリューションズの2カンパニー化
 - － システムソリューション本部の新設
 - － インダストリアルソリューションズの分社独立
- 固定費削減
 - － 早期退職優遇制度(6月)
 - 応募者300人強、特別退職金・転進支援金38億円
 - － ワークシェアの継続
 - － 米国子会社 短期シャットダウン

2003年3月期 中間期業績見通し

(1) 全社 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	連 結		単 独	
売上高	390	(-387)	225	(-337)
営業利益	60	(-183)	70	(-160)
経常利益	80	(-177)	80	(-162)
純利益	175	(-241)	150	(-202)

(2) 事業セグメント別 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	売上高		営業利益	
情報通信機器	40	(-39)	20	(+9)
計測器	270	(-274)	30	(-157)
デバイス	6	(-59)	12	(-27)
産業機械	59	(9)	0	(-3)
サービス他	15	(5)	2	(-4)

2003年3月期 年度業績見通し

(1) 全社 (連結)

単位: 億円 ()は前期比増減額

	連 結		単 独	
	2003年3月期	2002年3月期	2003年3月期	2002年3月期
売上	915	(-401)	560	(-350)
営業利益	35	(-111)	75	(-125)
経常利益	75	(-124)	85	(-137)
純利益	170	(-196)	150	(-185)
FCF	0	(+94)	30	(-36)

(2) 事業セグメント別 (連結)

単位: 億円 ()は前期比増減額

	売上高		営業利益	
	2003年3月期	2002年3月期	2003年3月期	2002年3月期
情報通信機器	120	(-63)	26	(+33)
計測器	615	(-271)	3	(-111)
デバイス	15	(-71)	23	(-30)
産業機械	125	(+2)	6	(+3)
サービス他	40	(+3)	5	(-6)

各事業分野の今後の取組み

光・デジタル通信用測定器、ルーター

IP測定技術
MD1230 データクオリティアナライザ

- トラフィックモニタ・分析
- ビットエラー測定
- ケーブル損失

•ネットワークのIP化トレンドは不変

•IP計測器市場規模
48%UP ('00から'01)

•IP測定技術、ルータ技術、ワイヤレス測定技術を結集した 測定器、ルータ、モニタリングシステムの開発

融合

新しい事業領域を開拓

ルータ
次期MultiFlow

- QoS 帯域保証
- QoS ルーティング
- 映像配信

ワイヤレス測定技術
3G、3.5G～4G測定

- RF測定
- 電界強度測定

各事業分野の今後の取組み

移動通信用測定器

- W-CDMA開発用を中心とした需要は堅調
2001年度 108億 - 2002年度 140億 予定 30% up
- 中国巨大市場は成長を続ける
- 2G、2.5G、3Gのすべてのシステムにつき全世界展開

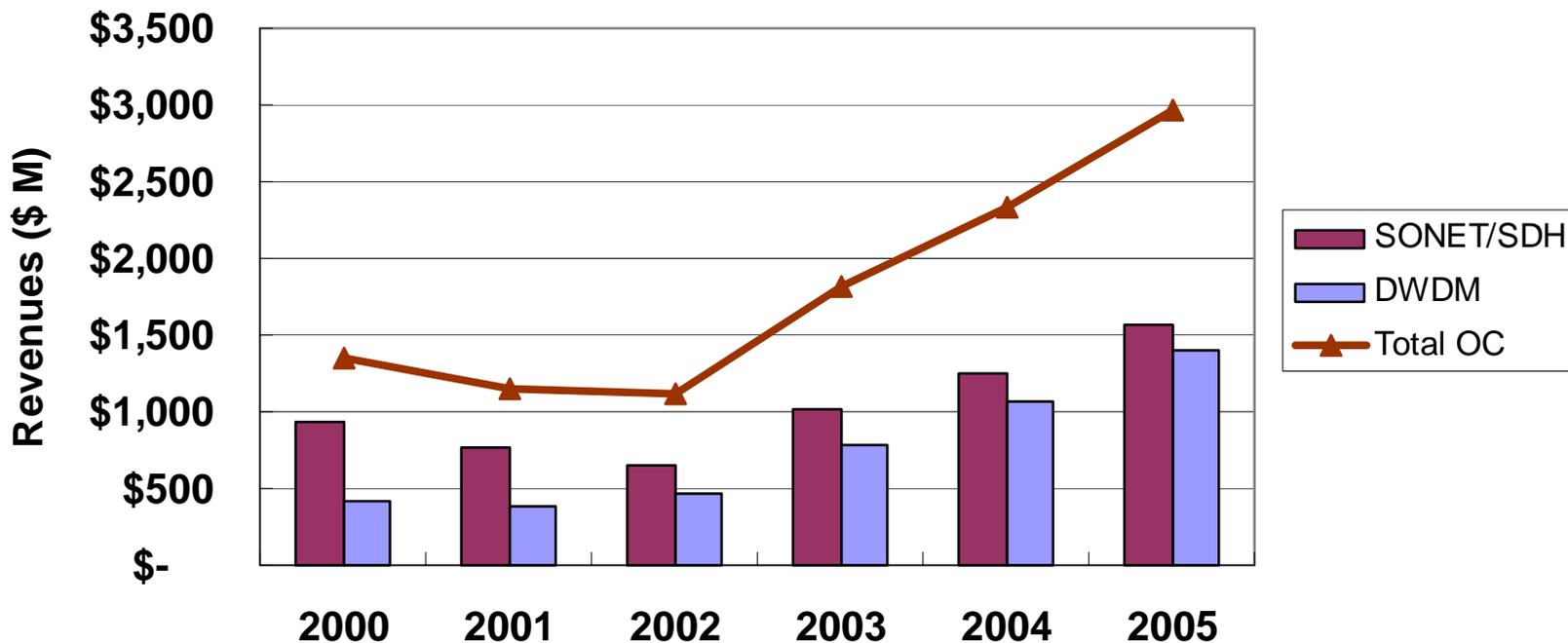
受注拡大方策

- ビジネスクリエーター
- グローバル・アカウント・プログラム
- 中国室

各事業分野の今後の取組み デバイス

2003年以降 品種を多面展開し、メトロ市場を攻略

Optical Components -- Metro Market



Source: RHK, Inc.

各事業分野の今後の取組み

システム ソリューション

国交省、JRを始めとする官公庁市場を主力に当社の
ルーターの強さを活かした映像配信システム事業を
2003年度に確立する

- 国交省・自治体 : 計測器、画像集配信ネットワーク、防災情報ネットワーク
- JR、通信事業者 : 計測器、IP通信システム
- 通信/映像機器メーカー: 計測器、IPネットワーク製品
(MF5000、コンテンツルータ、etc)

第2四半期以降の取組み

• 経営力アップの取組み

- オペレーション効率化のためのグローバルIT化
 - SCMカットオーバー：納期短縮、棚卸の削減
 - CRMカットオーバー：顧客サービス、受注確度の向上
 - DSS導入：グループ経営の意思決定スピード化
- ソリューション営業による提案力の向上強化
- 固定費の一層の削減

• 受注拡大の取組み

- IPソリューションと3Gへフォーカス
- Business Creator：経営トップによる戦略的提携
- 中国室の設立：専任執行役員を置き、全社リソースの集中投下
- メンテナンス・マーケット(各国の内需市場の掘り起こし)
- 研究所の知的財産の事業化
- 開発、マーケティング、営業部門のワークシェアリング一部解除